



望洋荘便り



第13号
平成16年
12月発行

祝

「望洋荘」開設一周年を迎えました。

皆様からのご支援、ご指導を賜り

心より御礼申し上げます。

今後も、変わらぬご支援、ご指導を

賜りますようお願い申し上げます。

「望洋荘」開設一周年にあたって

りんさく福祉会

理事長

須田 滉

「生活を支える介護・人間らしく生きる介護」の時代に即応すべく、介護老人福祉施設「望洋荘」を行政、地域住民のご支援のもと、平成十五年十二月一日に開設し、早くも一年を迎えることが出来ました。この間における皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。当施設は、「ユニットケア」という形式をとり、プライベートへの配慮がなされた建物となっており、少人数の構成による、家庭的な雰囲気のもと、「生活を共にしていくケア・一人一人の暮らしを支えるケア」を目指してまいりました。

この「望洋荘便り」も施設内外のコミュニケーションの一翼を担えればとの思いで発刊してまいりました。私の巻頭言のタイトルを次に列挙いたしますが、このタイトルの中からも私共職員理念を些かなりとも感じていただければ誠に幸いです。

(第一号) 「望洋荘」開設・・・豊かな高齢社会(福祉社会)の実現を求めて



(第二号) 望洋荘落成記念祝賀会での理事長の挨拶から

(第三号) 「望洋荘入居者家族の会」を作る提案

(第四号) 望洋荘に住む人たちの考える(その一)

(第五号) 望洋荘に住む人たちの考える(その二)

(第六号) 「着替えの効用」

(第七号) 「望洋荘」でのボランティア活動のお願い

(第八号) 食事の介護・・・楽しく食べる雰囲気づくりを

(第九号) 感謝してこそ・・・喜ばれる仕事をしましょう

(第十号) 与えられた「優しさ」

(第十一号) 私の信条

(第十二号) 苦言は喜んで・・・

科学技術は驚異的な発展をみせております。医学も同様に予防・治療方法も大きく進歩しました。生活水準も向上し、結果として高齢化が急速に進み、多くの人たちが八十歳、九十歳代の長寿を楽しめるようになりました。単に長く生きるだけでなく、人間性を保ち、助け合い、お互いに輝きを持つて生きることがあります。そのお手伝いをすべく、この一年間職員と共に努力を続けて参りました。しかし、正直なところ「望洋荘」の在り方を如何にすべきか模索をした一年でもありました。職員に対しての研修、教育等々、まだまだ不十分であったと思える一年でもありました。そんな中、多くの方々のボランティア活動、「望洋荘まつり」などの折の地域の方々のお手伝いを頂くこと等により大いに励まされてまいりました。福祉施設の運営にあたっては、一個人、一組織の中だけでは貫徹できるものでなく、温かい、優しい心を持った人たちの協力がなければ成り立たないものであることを痛切に感じさせられた一年であったと言っても過言ではありません。改めて感謝申し上げます。

新しい年も皆様のご支援をいただきながら、「望洋荘」の入居者のために、「ユニットケア」方式の利点を最大限生かして、新しい家族同様の仲間作りを進めていきたいものと思っております。何卒一層のご協力をお願いいたします。

施設長より一周年のごあいさつ

一年が経って思うこと

ユニットケアとは？

○個人を大切にします。

○自分本位の生活リズムがつくれる。

○なじみの関係が出来る。

○家庭での生活習慣をそのまま移動させた空間

それがユニットケアの基盤となる考え方ではないでしょうか！

当ホームでもそれを取り入れた部屋づくり（ハード面）はしましたが、スタートしてみると利用者様の体力・身体機能の状態が様々でその対応—まず生活に慣れる事、食べる事、眠る事、排泄する事、入浴する事等々—に苦慮しました。

利用者様も一年生、職員も一年生、落ちつかない日々が続きましたが、とにかく一年が過ぎました。そして今一番考えている事、それは職員を育てる事の大切さです。お年寄りとの生活の経験のない人もおりました。お年寄りを知る事、心、身体、その機能も、その人の歩んできた軌跡等々。ここにあつては、お年寄りが一番頼りにしているのは、身近に居る介護士です。その人の顔を見て安心したり、不安になったりするものです。いつでも笑顔で頼りがいのある介護士になって貰う事。顔を見て、目を見て何を求めているのかを読み取れる様になったら、一人前ですね。

ユニットの利点をうまくとらえて、最終章の人生をゆつくりと自分なりの生活を送って頂くよう、これからも努力を惜しまないつもりです。

二年目の始まりにあたり職員一人一人目標を持って、適切な判断力を養って行って欲しいと思っています。

今月の言葉その⑪（倫理研究所編標語集から）

まごころの前に道は拓ける

「まごころを傾ける」という言葉はもはや死語となりつつあるのだろうか。だが、死滅させてはなるまい。だって、最後に人の心を動かすのはやはり、このまごころなのだ。

『お誕生会』豊間・薄磯ユニット合同

十一月二十八日（日）豊間・薄磯ユニット合同による「お誕生会」を実施致しました。今回は両ユニット職員十二名による素人芝居『シンデレラ姫』を披露しました。男性職員が演じる王子様にシンデレラ姫では、クライマックスのキスシーンにはハッピーエンドとは思えない光景でしたが、ユーモア抜群の作品に仕上がっており、利用者様も大喜びでした。



『コーラスこだま』のみなさん

十一月二十四日（金）ボランティアの「コーラスこだま」の皆様によるミニコンサートを開催致しました。総勢十七名による迫力満点のコーラスに利用者・職員一同癒しのひと時を過ごす事が出来ました。心より感謝申し上げます。

今回のコーラスは世界の名曲「エーデルワイス」から始まり「沖繩民謡」「ふるさとの四季」ソプラノ独唱、最後に利用者と全員で「故郷」を歌いました。



軌道修正

理事長 須田 湜

学生、研修生、そして医者となった頃からの自分の歩み、若干振り返ってみたい。医師として、患者と対面して、訴えを聞き、患者を診断。且つ治療の方針を決定し治療行為の実施。ひたすらこの繰り返しの日々であった。特に若かりし頃の研修の中では、専門化した講座制(医局のもと、高度の専門性が尊重され、学会の業績重視の風潮が、強かったように思う。先輩の築いてきた軌道(レール)を何の疑いもなく踏襲してきたように思える。この間、患者が求めているものは何か、医の心を如何に用いるべきか等に意を注ぐ余裕などあっただろうか。疑問が残る。更に、診療所、病院の開設を考えた時、プライマリケアの実践について極めて安易に考えていなかっただろうか。加えて、開業にあたって危機管理についてどれほどの思慮がなされたであろうか。周知のように、今日、我が国では、政治・経済・教育・医療等々のあらゆる領域において「危機管理」(リスク・マネージメント)が叫ばれております。いずれの分野においても、その重要性に軽重は有りませんが、こと医療に関しては、生命に直結する領域であります。あれこれ今日考えますと、内心忸怩たる思いを隠し得ません。

さて、わが国の医療体制に思いを起すと、かつては開業医が主役でありました。診療所での医療はもとより、往診は至極当然の行為でありました。しかし、終戦後のこの五十年の期間に、日本の社会も医療体制もめまぐるしい変貌がありました。日本経済の急成長と歩調を合わせ、大型医療機関が全国各地に創設され、高度の医療設備の充実が図られてきました。それに伴い開業医も診療所の中に小規模ながら医療機器の拡充がなされ、大病院の補助的な役割を担う傾向が出てきました。このような現実の中、診療所の医者までが、検査偏重に陥り、往診を軽視する向きが強くなっていったように思える。その背景には、税制の改革や度重なる診療報酬の改定が大きく係わっていることと思う。戦後の社会保険制度の整備と共に医療費の収入の保証がなされてきました。ある意味で医療の世界も他の分野同様、戦後五十年は護送船団方式の傘下にあつたとと言っても過言ではないでしょう。すっかり慣れてしまった国民も医者も、今後もお国が船団の護送を引き受けてくれると思つてはならないか。並みいる政治家も護送船団の継続が恰も可能であり、そのために努力を傾注しているような姿だけは見せているようだが……。だが、バブル崩壊後の低経済成長時代を冷静に判断すれば、今までのような保険医療制度の維持が如何に困難かは瞬時に判断出来ると思う。医療といえども例外ではないのだ。医者はともすれば社会の中で尊敬を一身に受け、特別扱いを受けているという錯覚に陥りやすい。意識の改革、軌道の修正を早急に図る必要を感じている。国の医療政策、各種の医学会、我々医師会等々の創られたレールの上で医療人として活動してきたに過ぎない。という認識の上に立ち、舵を変えて如何に、今後効率的に進むかを研究せねばなるまい。開業医、勤務医共に同じであると思う。周りで共に努力をしているパラメディカルの為にも経営者とし

ての感覚も身に付ける必要がある。

兎も角も、一年半後には介護保険が参入してきます。医療と福祉が併合したビジネスが展開されるのであります。言うまでもなく、医療技術だけで解決されるものでは有りません。介護士、ヘルパー、社会福祉士等々の専門家との協力が不可欠です。無論のこと、看護師の果たす役割が拡大してゆくことは必然であります。より良い医療と福祉を実現させる為には、この専門家たちの立場を充分に理解し、且つ、有機的な結びつきを形成しなければなりません。従前の奢り高ぶつた医師の態度があつたとすれば、崩壊することは目に見えております。オーケストラに喩えるなら、さしずめ我々はコンダクターといったところでしょうか。しかし、このコンダクターは大きな楽団の指揮者でありませんから、時には楽器運びもしなければなりませんし、切符売りも、ある時には練習会場の確保に奔走しなければなりません。たまには演奏も、当たり前のこととして指揮も……。ということになりましょうか。

お山の大将ではなく、多くの人とのネットワーク、いろいろな機関とのネットワークが非常に大切であるとの認識をもつて、二十一世紀の医療・保健・福祉の活動に邁進いたしました。

(いわき市医師会報「平成十年」への寄稿文から)

第九十回 いわき寄席の案内

三遊亭 圓龍 二人会
川柳 柳師匠



平成 17 年 1 月 24 日 (月)
午後 6 時 30 分開演 いわき市文化センター

ご家族、お友達お誘いの上おいで下さい
一笑う門には福来るといいます。
笑いは家族円満一

川柳 川柳 (かわやなぎ せんりゅう)

本名 加藤 利男
生年月日 1931年 03月 23日
出身地 埼玉県秩父市横瀬村
芸歴
昭和 30 年 7 月 六代目三遊亭圓生に入門
昭和 33 年 3 月 ニツ目昇進
昭和 49 年 3 月 真打昇進
昭和 53 年 五代目柳家小さん門下へ「川柳川柳」に改名
自己PR 隠れキリシタン 裏の洗礼名 ヨハネ・川柳・一世

三遊亭 圓龍 (さんゆうてい えんりゅう)

本名 水野 孝雄
生年月日 1939年 02月 20日
出身地 山梨県高根町
芸歴
昭和 40 年 2 月 三遊亭圓生に入門
昭和 44 年 4 月 ニツ目昇進
昭和 56 年 3 月 真打昇進
自己PR 個人的なネタとしては、かなり自分流になってきた「転失気」と自分で三味線を弾きながら行う「稽古屋」などです。

介護老人福祉施設 『望洋荘』
職員紹介⑬&コメント集



事務 金澤 昌明

早いもので、今月「望洋荘」開設一周年を迎える事が出来ました。これも、利用者様・ご家族様・関係者様・地域の皆様方のご支援、ご指導の賜と存じます。深く御礼申し上げます。

はじめに私の仕事ですが、普段は事務所にて各種書類の整理・会計事務等を担当しており、それにこの「望洋荘便り」の編集をしています。今回で十三号になりますが、初刊号の時は、まだ何もない状態でスタートし、何を載せるか、どの様なレイアウトでサイズはどうするか、印刷はどうするか等、理事長と打合せを繰り返し、現在に至っています。最初の頃は、何かと記事にする事も多く、月初めには発刊していたのですが、段々とネタが少なく発刊が遅れる事もしばしば出て来ました。そんな時に利用者様・ご家族様から「今月は「望洋荘便り」ないの？毎月楽しみにしているよ」と激励の言葉を頂き、奮起して頑張っています。これからも継続して行きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



看護師 赤塚 多寿子

この福祉施設で働くようになり半年が過ぎました。以前病院で働く中で、人との触れ合いの楽しさを知

りました。この施設に入居されている方は、私達にとって人生の先輩です。その方々から色々な事を学び、スタッフや入居者の方々との触れ合いの中から、楽しみを見つけ出し、仕事をして行きたいと思いません。よろしくお願ひ致します。



介護士 石上 阿希子

以前私は、看護師として長い間病院で勤務してました。初めて介護士として働くようになり半年が過ぎましたが今までの病院での経験を生かし、医療面からも入居者の方々の様子や変化に早く気づき、皆様に安心して御利用して頂ける様な施設作りをして行きたいと考えております。よろしくお願ひ致します。

望洋荘からの御案内

まもなく新年を迎えようとしています。年末・年始のご予定はお決まりでしょうか？もしご利用者様の外出・外泊などのご予定がございましたら、お早目にユニット担当職員、事務職員に申し出下さいませお願ひ致します。

昨日、皆様のご理解もと、ご利用者様全員のインフルエンザ予防接種を完了致しました。これから寒い日が続きますが、ご利用者様の健康管理に十分気をつけて行きたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

介護保険一口メモ ⑬

『痴呆症』を『認知症』に変更

厚生労働省の「痴呆(ちほう)」に代わる名称を決める検討会が開催され、「痴呆症」を「認知症」に変更することで大筋合意しました。十二月二十四日に開催予定の次回合会で正式に決定し、介護保険法など関係法令を改正する一方、来春までに行政文書などでも「認知症」への切り替えを行う予定です。

「痴呆」という表現には蔑視的な意味が含まれ、「何も分からず、何もできない」との誤解を招きやすく、早期診断などを妨げる一因との指摘があり、厚労省は六月から新たな呼称を検討してきました。

高齢者の介護保険料を六段階に細分化

第二段階を二つに細分化し、年金収入八十万円以下の負担を軽減する。

厚生労働省は十月十二日の全国介護保険担当課長会議で、六十五歳以上が負担する所得段階別の介護保険料(一号被保険者の保険料)について、現行の原則五段階から六段階に細分化する方針を公表しました。低所得層の保険料区分を細かくすることで、負担軽減を図ります。二〇〇六年四月からの実施を目指すこととなります。

編集後記

『望洋荘』便り

平成十六年十二月一日発行

発行所 いわき市

平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373

FAX (0246) 55-7255